

# 絶滅危惧植物トウテイランの調査は過酷でした

自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

石田 弘明



トウテイラン（オオバコ科）は日本固有の多年生草本で、京都府・鳥取県の日本海側地域の一部と島根県の隠岐諸島に分布しています。本種は生育場所の開発や園芸目的の採取などによって著しく減少しており、その絶滅が危惧されています。

トウテイランを保全するためにはその生態に関する研究が必要です。そこで、今から10年ほど前、研究仲間と一緒に、トウテイランの自生地である丹後砂丘（京都府京丹後市）において、本種の分布状況や生育立地などに関する調査をおこないました。その結果、丹後砂丘にはトウテイランの最大規模の個体群が分布していることなどが明らかになりました。

分布状況の調査はトウテイランの開花期である夏季におこないました。日陰のない砂丘はまさに灼熱地獄。あまりの暑さで、たびたび気を失いそうになりました。また、調査中は何度もくじけそうになりました。しかし、仲間と励ましあいながら頑張った結果、多くの

データを収集することに成功し、後日、研究成果を学術雑誌の論文として公表することができました。

研究には苦勞が多く、健康を害することもあります。ありますが、新発見の喜び（と調査後に飲む冷たいビール）はこのような苦勞を吹き飛ばしてくれます。だから、研究はやめられません（^^）。



丹後砂丘に生育するトウテイラン。

研究の結果、丹後砂丘でのトウテイランの生育適地は海からの影響が中程度の立地（海岸段丘の斜面地）であることが明らかになりました。